

3. 現状から考える今後の取組

1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理

① 除草の現状

■ 基本的な考え方

- ◎ 通学路や交差点などの安全確保が最優先
- ◎ 景観や生態系の保全とともに、利用実態等も踏まえた管理

■ 実施方法

- 定期除草 …… ▶ 年間計画に基づく草刈り
 - ▶ 道路・河川・公園の各施設毎に、除草の標準的な回数及び時期を設定
- 臨時除草 …… ▶ 要望への対応や安全確保などのための追加草刈り
 - ▶ 市民要望や現場確認などに基づき、緊急性が高い箇所を優先して実施

■ 回数・時期

道路			河川		公園	
種別	除草回数	除草時期	除草回数	除草時期	除草回数	除草時期
中央分離帯 植樹帯	1~2回	① 7~8月 ② 10~11月	1回	8~9月	2回	① 6~7月 ② 10~11月
法面ほか	1回	7~8月				

16

3. 現状から考える今後の取組

1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理

② 今後の取組（除草方法および財政負担の最適化）

■ 最適化の考え方

- 道路
 - 除草回数：中央分離帯や植樹帯など、安全上配慮が必要な箇所については、必要に応じて追加実施
 - 除草時期：要望が多い9月に追加などを検討

- 河川
 - 除草回数：年1回を原則としつつ、特に治水、景観・利用に配慮が必要な箇所などは目的に応じて対応
 - 除草時期：梅雨の前後及び10~11月に追加などを検討

- 公園
 - 除草回数：利用頻度が高い公園のうち、特に都市景観・美観に配慮が必要な箇所については、適切に対処
 - 除草時期：要望が多い8~9月に追加で対応などを検討

雑草の種類や、草刈りの時期、草丈の刈り高などに応じて
最適な効果を確認するために、試験施工及びモニタリングが必要

17

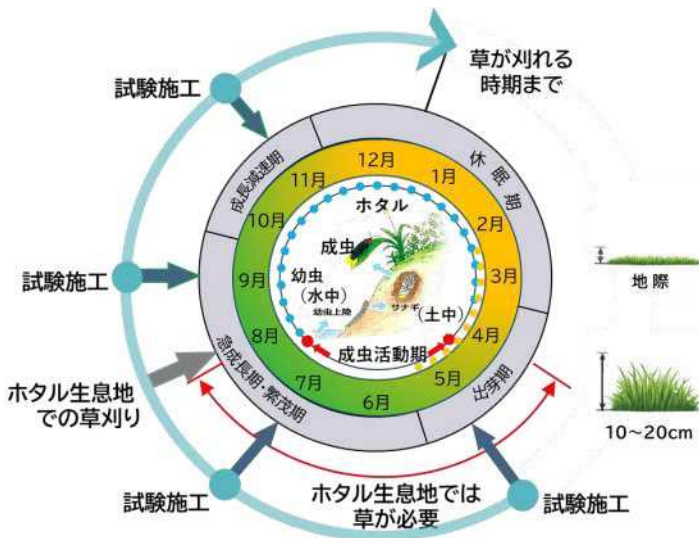
3. 現状から考える今後の取組

1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理

③ 試験施工及びモニタリングの実施

除草の目的及び収集した既往の知見等に基づき、除草計画（仮説）を立て、雑草の種類・草刈りの時期・草丈の刈高などによる効果を検証するため、試験施工（又は実証実験）及びモニタリングによりデータを収集した上でデータ解析を行い、計画を見直していく（最適化を図る）

■ モニタリングイメージ



■ 試験施工日(モニタリング開始日)

- ▶ モニタリングは、試験施工日を起点に、1か月後、2か月後、6か月後、1年後

◆ 試験施工の候補時期の考え方

1. 出芽期の4月～5月
 - ▶ 芽が出始める前に枯草とともに刈ると効果的
2. 成長期の6月～7月（梅雨明け頃）
 - ▶ 雑草が急激に伸びる梅雨明けに一度刈ることで、その後の生い茂る勢いを抑えることができる
3. 生育が落ち着く9月～10月
 - ▶ 雑草の成長速度が落ちる時期に刈ることで、翌年に向けた種が落ちるのを防ぐことができる
4. 枯れ始める11月～12月
 - ▶ 草のエネルギーが弱まる時期に刈ることで翌年の成長を抑制しやすくなる

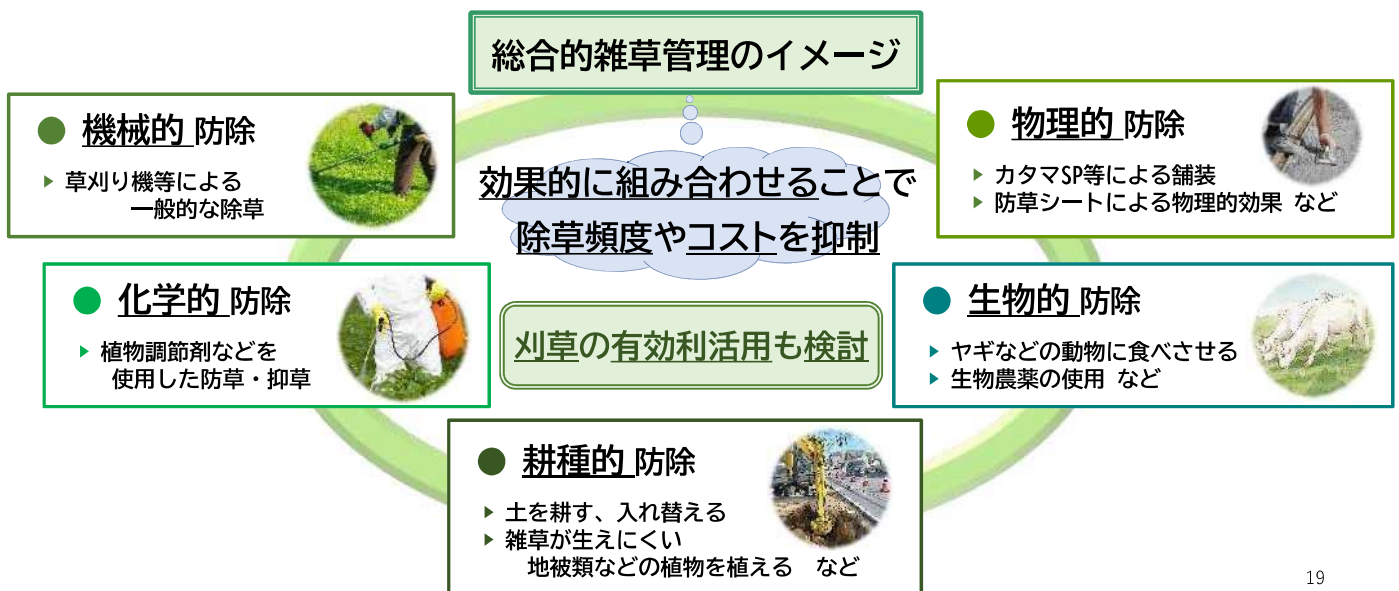
18

3. 現状から考える今後の取組

2) 「総合的雑草管理（Integrated Weed Management）」の考え方の導入

- ◆ 地球温暖化や除草コスト上昇などの影響により、従来の除草中心のやり方では維持管理が困難

➔ 除草と草が生えにくい構造等を適所で効果的に組み合わせる
「総合的雑草管理(IWM)」の活用に向けた検討が必要



19

3. 現状から考える今後の取組

2) 「総合的雑草管理 (Integrated Weed Management)」の考え方の導入

■ 当面の方向性

● 機械的 防除 	主要な防除として実施 ▶ 安全確保や景観、生態系の保全などを踏まえた管理
● 物理的 防除 	再発抑制や草刈りの効率化の柱として実施 ▶ 試験施工の検証結果を活かして計画的に継続実施 (除草面積の削減を図る)
● 耕種的 防除 	協働の促進と景観に配慮した取組の実施 ▶ 例：根がはびこっている土の入れ替えによる雑草の除去 景観に配慮する中央分離帯などでの地被類の活用
● 化学的 防除 	調査/研究 ▶ 安全安心を第一に慎重かつ入念に議論 ▶ 他都市の事例研究、適用条件・評価項目の整理 など
● 生物的 防除 	調査/研究 ▶ 他都市の事例研究、適用条件の整理(条件が整えばモデル検証)

➔ 試験施工 及び モニタリング等を通して、適所で効果的な組み合わせを検討

20

3. 現状から考える今後の取組

3) 協働の再設計

■ 方向性

- 自治会等のボランティアの方々などとの役割分担を再整理し、担い手不足に対応した“無理のない協働体制”を再設計

■ 協働の再設計の考え方

- ▶ 官民の役割分担や既存支援制度の再整理
- ▶ 企業等との新たな連携施策の検討
- ▶ 施設の利用 (活用) 方法の転換 など

➔ 多様な世代・団体が様々な形でつながり活動できる、活気ある地域社会の実現を目指す

21

3. 現状から考える今後の取組

4) 効率化(新技術等の導入)の検討

- 効率的・効果的な雑草対策を行うため、より安価な材料を使用した防草(カタマ®SP等)や民間ノウハウの活用、包括管理型・性能規定型・民間提案型など、新しい除草・防草方法の導入などについてもあわせて検討していく

ex.カタマ®SP (防草)

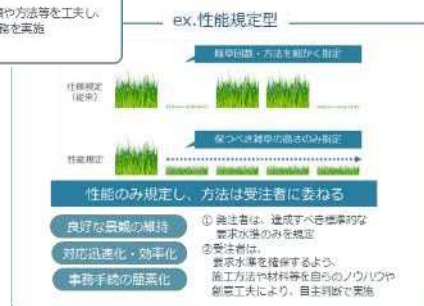
- 従来の防草資材より安価である日本製鉄株式会社の製品「カタマ®SP」を使用した工法。

「カタマ®SP」は、鉄の製造時に副産物として発生する鉄鋼スラグから作られる製品で、鉄鋼スラグの「水と反応して自ら固まる性質」を活用した舗装材。
(※資材は日本製鉄株式会社から提供)

- 令和6年度より試験施工を開始。縁石等の目地の一部に雑草がみられたが、全体的に雑草は生育しておらず、防草効果を確認。

【施工後 (R6.12)】 【8か月経過】

【道路・中央分離帯】



22

1. 背景 (現状)

- 1) 『北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略』とは
- 2) 地球温暖化などの気候変動の影響
- 3) 雑草が繁茂することによる課題
- 4) 除草コストの高騰による影響
- 5) 市民ボランティア団体の現状
- 6) 雑草に関する市民ニーズ
- 7) 戦略の必要性

2. 基本戦略の核心 (4つの柱)

- 1) 基本戦略の核心と4つの柱
- 2) 4つの柱の考え方

3. 現状から考える今後の取組

- 1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理
- 2) 「総合的雑草管理」の考え方の導入
- 3) 協働の再設計
- 4) 効率化(新技術等の導入)の検討

4. 基本戦略がもたらす効果

5. 基本戦略の効果を持続可能にするための仕組み

「雑草対策基本戦略」策定がもたらす効果

- ▶ **温暖化の影響下**でも
安心して暮らせる「**安定した維持管理**」の実現
- ▶ **総合的雑草管理**と**新技術等への挑戦**により、
将来の**除草コストの伸び**を**できるかぎり抑制**
- ▶ **良好な景観の維持**や
危険箇所の早期対応により、
市民が変化を実感できる都市環境へ

24

1. 背景（現状）

- 1) 『北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略』とは
- 2) 地球温暖化などの気候変動の影響
- 3) 雑草が繁茂することによる課題
- 4) 除草コストの高騰による影響
- 5) 市民ボランティア団体の現状
- 6) 雑草に関する市民ニーズ
- 7) 戦略の必要性

2. 基本戦略の核心（4つの柱）

- 1) 基本戦略の核心と4つの柱
- 2) 4つの柱の考え方

3. 現状から考える今後の取組

- 1) 除草の時期の見直しとメリハリのある管理
- 2) 「総合的雑草管理」の考え方の導入
- 3) 協働の再設計
- 4) 効率化(新技術等の導入)の検討

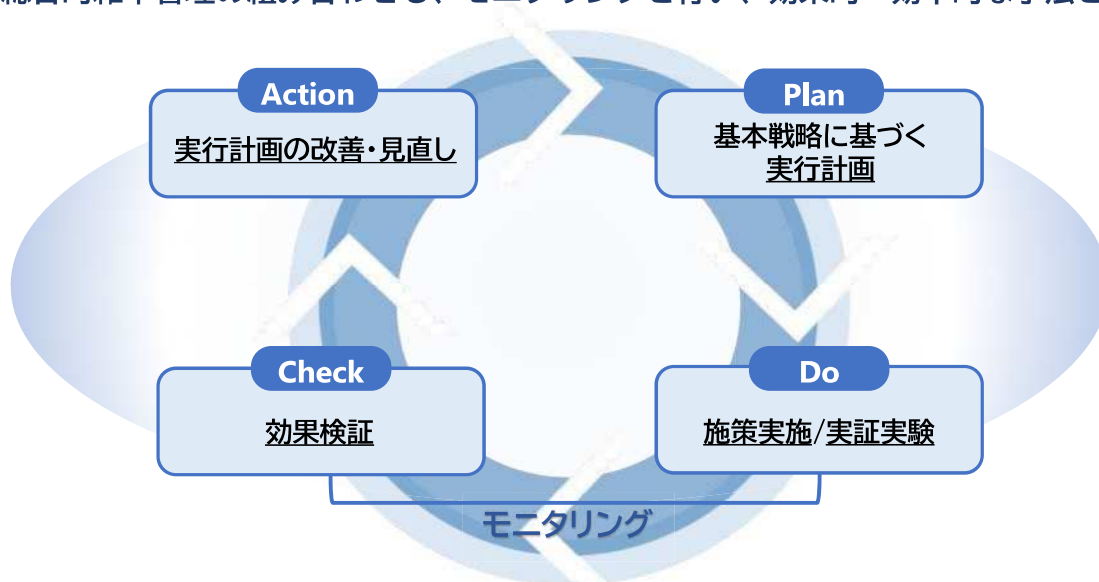
4. 基本戦略がもたらす効果

5. 基本戦略の効果を持続可能にするための仕組み

25

5. 基本戦略の効果を持続可能にするための仕組み

- 基本戦略に基づく **実行計画** については、
環境変化 に **対応** し、**持続可能な雑草管理** を **実現** するため、
PDCA を回し、**継続的かつ絶え間のない改善** を行うことにより、
サステナブルなまちづくり につなげる
 - ▶ 刈り高や時期など試験施工し、その後のモニタリング結果を反映
 - ▶ 総合的雑草管理の組み合わせも、モニタリングを行い、効果的・効率的な手法を確立する



26

北九州市「道路・河川・公園」雑草対策基本戦略

～ “未来” を創る持続可能な維持管理を目指して～

— 最終とりまとめ案（市民意見募集後） —

【 各 論 編 （ 道 路 ） 】

— 北九州市 都市整備局 —

令和8年5月14日